

第4章 子ども読書活動推進のための施策

子ども読書活動推進のための施策は、子どもの発達段階に合わせて、乳幼児期、小学生期、中学生・高校生期及び特別な支援を必要とする子どもの4つに区分して「施策の目標値」を設定しました。

また、施策の実施にあたり、基本目標の項目ごとに、家庭、地域、学校、図書館等で取り組む事業を明らかにするとともに、事業ごとの目標を設定します。

第1 乳幼児期の施策

乳幼児期は、子どもが保護者から声を掛けてもらったり、言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、生涯にわたる人間形成の基礎がつくられる時期です。また、この時期の子どもは、読み書きできず自分で図書を探すことができない上に、お気に入りの図書を見つけても自分では読めないことから、図書との出会い、図書に親しむためには、保護者の役割が重要となります。

このように保護者とのかかわりが子どもの読書活動に大きく影響を与えることから、保護者は積極的に子どもに働きかけ、読書活動を進めることが大切です。また、保護者からの読み聞かせなど、一緒に図書に触れ、時間を共有することで豊かな感情が育まれるとともに、保護者からの愛情を感じ、絆を深めることに繋がります。

施策の目標値	<ul style="list-style-type: none">• 乳幼児の延べ貸出者数を1.5倍にします。 平成30年度 16,627人⇒令和6年度 25,000人• 乳幼児への延べ貸出冊数を1.5倍にします。 平成30年度 67,129冊⇒令和6年度 101,000冊
--------	---

1 読書活動の機会の充実と啓発

(1) 家庭

図書を介して子どもと心を通わせる機会を持つ取組をお勧めします。

取組例
[101]わらべうたや絵本の読み聞かせをして、子どもが言葉や読書に興味・関心を向けてもらえるようにします。
[102]図書館で子どもと一緒に図書を選びます。
[103]子どもが興味を示す図書を読み聞かせます。
[104]おうち De どくしょノート ¹ を活用して、家族で一緒に読書をします。
[105]保護者や家族等が互いに図書を紹介し合ったり、子どもの読書の様子を話したりします。

(2) 地域の施設²

定期的な読み聞かせをはじめとして、保護者への啓発として、保護者も参加する行事におけるブックトークや図書館見学を行います。また、保育関連施設における定期的な読み聞かせは、読書ボランティアの協力も得て進めます。

事業	指標	平成30年度 現状	令和6年度 目標
[115]定期的な読み聞かせ	—	実施	実施
[116]保護者も参加する行事におけるブックトーク【新規】	—	—	実施
[117]図書館見学	—	実施	実施

(3) 区立図書館・図書室³

家庭にとっての身近な読書の場としての役割を果たしている区立図書館・図書室の「こどもとしょしつ」及び児童コーナーでは、司書が図書の選び方や留意点などを助言し、絵本や紙芝居の貸出をします。また、お話し会や工作会の子ども向けの催しを多く開催し、親子で図書を楽しむ環境が整えています。

¹ 「おうち De どくしょノート」：親子の読書活動を進めるために、図書館が作成し、配布している、親子で記入する読書ノートです。

² 「地域の施設」：保育園、幼稚園、児童館、子育てひろば等の施設を指します。

³ 「区立図書館・図書室」：墨田区立図書館・コミュニティ会館図書室を指します。

保護者が子どものために図書を選び、読み聞かせができるように、絵本に関するレファレンス等支援するとともに、お話し会や工作会を通じて、読書のきっかけづくりを進めます。また、ブックスタート事業⁴、ブックリスト⁵の配布を通して、子どもの発達段階に応じた図書を紹介します。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[128]児童書及び絵本の利用推進【拡充】	児童書及び絵本の貸出冊数	652,889冊	980,000冊
[129]絵本に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	4,000枚	4,500枚
[130]絵本についてのレファレンス	—	実施	実施
[131]お話し会、工作会の開催【拡充】	開催数	421回	500回
[132]ブックスタート事業	—	実施	実施

2 読書環境の整備

(1) 家庭

子どもへの読み聞かせや子どもが手軽に図書を取れるような環境を作る取組をお勧めします。

取組例
[111]家族が一緒に読書する機会をもち、子どもが手軽に図書を取れるようになります。

(2) 地域の施設

保育園と幼稚園等の施設の状況に応じて団体貸出を行い、読書活動が円滑に行われるよう読書環境の整備を進めます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[120]保育所保育指針等に基づく読書に親しむ環境づくり	—	実施	実施

⁴ 「ブックスタート事業」：読書のきっかけづくりのために、乳幼児健診で絵本を開く楽しい体験と絵本をセットでプレゼントする事業です。墨田区では保健センターの乳幼児健診時に図書館・図書室が実施しています。

⁵ 「ブックリスト」：年齢層やテーマに沿った、図書館が薦める図書リストです。区立図書館・図書室、学校、保育園、児童館等に配布し、図書館ホームページでも掲載しています。

[121]乳幼児向け図書の整備	—	実施	実施
[122]団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	76施設	106施設 (幼稚園、保育園、認定こども園、児童館、児童施設等)

(3) 区立図書館・図書室

児童書及び絵本の充実とともに、絵本・子育て関連又は司書が推薦する図書の貸出セットを用意し、保護者が手軽に図書を借りられるよう読書環境の整備を進めます。また、保護者が子どもとともに、読書体験の共有や振り返りを行うことができるよう、図書館システムの読書履歴参照サービスの利用を周知します。さらに、読書を身近に感じられるようにリサイクル図書を提供します。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[133]児童書及び絵本の収集と提供【拡充】	児童書及び絵本冊数	217,013冊	241,000冊
[134]本棚の作り方のPR【新規】	—	—	実施
[135]リサイクル図書の提供	—	実施	実施
[136]絵本・子育て関連図書等の貸出セット【新規】	セット数	—	100セット

3 読書活動を支える人材育成

(1) 家庭

子どもへの読み聞かせを行うきっかけとして、保護者がお話し会や読書の講座を通じて、読書の楽しさを体験し、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ることをお勧めします。

取組例
[113]お話し会や読書の講座に参加し、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ります。

(2) 地域の施設

施設職員の読書技術向上と読書ボランティア活用を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[125]施設職員の読書技術の向上【新規】	—	—	実施
[126]読書ボランティアの活用	—	実施	実施

(3) 区立図書館・図書室

読書ボランティア養成講座の開催、図書館員向け絵本のレファレンス研修やブックトークなどの読書技法の研修に取り組みます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[137]読書ボランティア養成講座の開催【拡充】	開催数	1 回	4 回
[138]絵本のレファレンス研修【新規】	開催数	—	1 回
[139]ブックトーク ⁶ 、ストーリーテリング ⁷ 等の技法の研修【新規】	—	—	実施

⁶ 「ブックトーク」：グループを対象として数冊の図書を紹介し、聞き手に読書意欲を起こさせることを目的とした読書活動です。

⁷ 「ストーリーテリング」：物語を覚えて子どもたちに対して語ること。文字を十分に読めない子どもでも物語を楽しむことができることから、読書への導入手段として用いられます。「素話」とも呼びます。

第2 小学生期の施策

小学生期は、低学年では一人で図書を読もうとするようになり、語彙量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになることから、読書に親しみ、いろいろな図書を知りたいと思うようになります。また、中学年では子どもは自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、図書の量が増えてくることから、幅広く、読書に親しむとともに、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことを気づくようになります。さらに、高学年では図書が選択でき始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの図書の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始めるようになります。

このような子どもの発達段階ごとの読書傾向がある一方で、インターネットが普及し、あらゆる分野の多様な情報に簡単に触れることができます。しかし、インターネットの情報は雑多な情報が体系的に整理されていない点が多いことから、情報の意味を吟味し、文章の構造や内容を的確に読み解く経験が少なくなっています。

このような状況にあって、子どもが文章の構造や内容を的確に読む解く力を育てるためには、読書活動を通じて、情報を精査し、自分の考えを形成し表現することが大切となります。

施策の目標値	不読率を平成25年度と比べて令和6年度末に半減させます。			
	不読率	平成25年度 実績	平成30年度 実績	令和6年度 (目標値)
小学校3年生	24.2%	17.6%	12.1%	
小学校4年生	22.6%	20.2%	11.3%	
小学校5年生	18.1%	17.2%	9.1%	
小学校6年生	23.1%	23.0%	11.6%	
中学校1年生	20.5%	15.9%	10.3%	
中学校2年生	23.0%	24.0%	11.5%	
中学校3年生	28.6%	30.5%	14.3%	

1 読書活動の機会の充実と啓発

(1) 家庭

家庭では読み聞かせを行い、子どもと一緒に本を読んだり、一緒に図書館を

利用したりするなど、子どもが読書に親しむきっかけを作ることが重要となります。そして、読書を通じて家族で感じたことや考えたことを話し合い、読書に対する興味や関心を引き出すように子どもに働きかけることが大切です。

「おうちDe どくしょノート」を活用し、家族と一緒に読書を楽しみ、保護者の愛読書や読書で面白かった経験を子どもに伝えることをお勧めします。

取組例
[201]子どもと図書館に行き、図書館利用を勧めます。
[103]子どもが興味を示す図書を読み聞かせます。
[202]子どもに家族の愛読書や面白かった読書経験を伝えます。
[104]おうち De どくしょノートを活用して、家族と一緒に読書をします。
[105]保護者や家族等が互いに図書を紹介し合ったり、子どもの読書の様子を話したりします。

(2) 地域の施設

子どもが読書を楽しめるような環境づくりが必要なことから、読み聞かせやブックトーク、図書館見学を通して、子どもが図書に触れる機会を増やします。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[115]定期的な読み聞かせ	—	実施	実施
[207]ブックトークやアニマシオン ⁸ の実施	—	実施	実施
[117]図書館見学	—	実施	実施

(3) 学校

学習の基盤となる言語能力や情報活用能力⁹を向上させるために、「主体的・対話的で深い学び」（新学習指導要領）の視点から、学校図書館を活用した授

⁸ 「アニマシオン」：子どもが読書をゲームのように楽しみながら、読解力、表現力、コミュニケーション力を育てる目的で、開発・体系化した読書活動です。

⁹ 「情報活用能力」：多様なメディアの情報を理解し、必要に応じて適切に使いこなすメディアリテラシーの能力です。小学生が利用可能な情報手段は、新聞・雑誌・辞書・事典等の言語メディア、地図・図表・グラフ・統計表・図記号等の記号メディア、絵・写真・ラジオ・テレビ・映画・インターネット等の視聴覚メディアが挙げられます。

業や調べ学習を中心とした読書活動に取り組みます。

さらに、不読率の改善のために、読書の楽しさを教えるとともに、読書により多くの知識を得ることや多様な考え方を知ることができることを子どもに理解させることが重要です。そのためには、学校図書館の全体計画、年間指導計画に基づく学習活動のなかで、国語の授業や学級指導における読書指導と合わせ、他の授業の学習内容とも関連付けた積極的な学校図書館活用を図ることが必要です。例えば、学校図書館での図鑑や科学的なことについて書いた図書から情報を得て、分かったことを説明する活動や図書・新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動を行うなど、情報を得るための読書と情報活用能力の育成に取り組みます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[211]読書指導	—	実施	実施
[212]朝読書等	—	実施	実施
[213]授業における学校図書館活用の推進	—	実施	実施
[214]下級生や幼稚園及び保育園の園児への読み聞かせ	—	実施	実施
[215]図書委員会活動での図書の展示や紹介	—	実施	実施
[216]図書館見学	—	実施	実施
[217]学校図書館でのお話し会の実施	—	実施	実施
[218]読書マラソン ¹⁰	—	実施	実施
[219]季節等に合わせたお薦め図書の展示	—	実施	実施
[220]ブックトークやアニマシオンの実施	—	実施	実施
[221]調べる学習コンクールへの参加	—	実施	実施

(4) 区立図書館・図書室

ブックリストで子どもと保護者に図書を紹介するとともに、お話し会や工作会を通じて、読書活動の啓発と機会の提供に取り組みます。また、子どもが調

¹⁰ 「読書マラソン」：図書を読んで冊数やページ数を記録し、自分で設定した目標に向かって、マラソンのように自分のペースで読書を進める読書活動です。

べたいテーマについて、関連資料の探索法を一覧にしたパスファインダーを作成し、調べ学習のための支援を行います。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[128]児童書及び絵本の利用推進【拡充】	児童書及び絵本の貸出冊数	652,889 冊	980,000 冊
[242]児童書に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	16,000 枚	16,700 枚
[243]パスファインダーの製作と配布【新規】	種類数	—	100 種類
[131]お話し会、工作会の開催【拡充】	開催数	30 回	40 回
[244]小学生の図書館利用の推進【拡充】	延べ貸出者数	47,286 人	71,000 人
	延べ貸出冊数	151,257 冊	227,000 冊

2 読書環境の整備

(1) 家庭

ブックリストを参考に子どもの選書を手伝うことや子どもが手軽に図書を取れるような環境を作る取組をお勧めします。

取組例
[205]ブックリストを参考に子どもが選書することを手伝えます。
[111]家族が一緒に読書する機会をもち、子どもが手軽に図書を取れるようにします。

(2) 地域の施設

子どもが手軽に読書できる環境の整備を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[209]児童向け図書の整備	—	実施	実施
[122]団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	9 施設	16 施設 (児童館、児童施設等)

(3) 学校

学校司書の配置の充実を図るとともに、調べ学習に役立つ図書の整備、学校図書館オリエンテーション¹¹の取り組みを進めます。また、学級文庫を充実し、子どもが気軽に図書を手に取れる環境の整備を進めます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[224]学校図書館年間指導計画に基づく運営	—	実施	実施
[225]学校司書の配置の充実【拡充】	配置日数	週2日	週3日
[226]調べ学習用図書の整備	—	実施	実施
[227]学校図書館オリエンテーションの実施	—	実施	実施
[228]学級文庫の整備	—	実施	実施

(4) 学校図書館

学校図書館は、児童生徒の読書活動や児童生徒への読書指導の場である「読書センター」としての機能と、児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能とともに、児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。このように学校の教育課程の展開において、学校図書館は重要な位置を占めています。

よって、小学生期の発達段階に応じた図書や教科の学習との関連を図りながら、学校図書館図書標準に従い図書を整備していくことが必要です。

また、調べて読む単元学習¹²では、課題解決のために、教科書や副読本のほか、図書やインターネットなど多様なメディアを活用して情報収集する力を子どもに身に付け、子どもが自主的、主体的に読書活動ができるように、学校図書館の図書や新聞の充実と選書の偏りを是正するなど整備を進めます。

¹¹ 「学校図書館オリエンテーション」：学校司書が、学校図書館利用のために図書資料の種類や配列や貸出方法等を案内することです。

¹² 「単元学習」：ある主題について行われるひとまとめの学習です。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[229]学校図書館の利用推進【拡充】	児童一人あたりの年間貸出冊数	36.7 冊	55 冊
[230]蔵書の管理	図書標準達成率	120.1%	維持
[231]選書及び除籍の管理	—	実施	実施
[232]新聞の設置【拡充】	設置学校数	12 校	25 校 (小学校)

(5) 区立図書館・図書室

児童書及び絵本の充実を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[133]児童書及び絵本の収集と提供【拡充】	児童書及び絵本冊数	217,013 冊	241,000 冊
[135]リサイクル図書の提供	—	実施	実施

3 読書活動を支える人材育成

(1) 家庭

お話し会等の参加を通じて子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ることをお勧めします。

取組例
[113]お話し会や読書の講座に参加し、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ります。

(2) 地域の施設

読み聞かせを行うボランティアなど、地域の幅広い人材の活用を図ります。

また、読書活動の担い手として施設職員の読書技術の向上を図ります。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[125]施設職員の読書技術の向上【新規】	—	—	実施
[126]読書ボランティアの活用	—	実施	実施

(3) 学校

子どもの読書活動を推進するために読書ボランティアを活用します。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[237]読書ボランティアの活用	—	実施	実施

(4) 区立図書館・図書室

児童書のレファレンス研修を行うことで、図書館員の専門性を高め、保護者や子どもが望む図書をより適切に案内できるようにします。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[245]児童書に関する レファレンス研修【新規】	開催数	—	1 回

第3 中学生・高校生期の施策

中学生・高校生期においては、自分独自の内面の世界に気づき、自意識と客観的事実の違いに悩み、様々な葛藤の中で、自らの生き方を模索する時期を迎えます。また、大人との関係よりも友人関係に強い意味を見出すとともに、保護者に対する反抗や家庭でのコミュニケーションが不足しがちになるなど、思春期特有の課題も現れます。

共感や感動する図書を選んで読むことや、自己の将来について考え始めるところから、読書を将来に役立てたいと思うようになるなど、読書の目的、図書の種類や知的興味に応じ、一層幅広く、多様に読書を始める年代になります。

一方で、自分の興味や関心がある分野にのみ熱中する傾向もあることや、部活動や進学・就職準備等で読書する時間が確保しにくくなる時期でもあるため、相対的に読書の関心度合いが低くなる子どもが増えることで、図書を読まなくなる傾向にあります。また、小学校段階までに十分な読書習慣を身に付けていない子どももいます。

このような現状を改善し、中学生・高校生期の子どもの読書の関心を高めるためには、教科の学習と学校図書館と連携を図り、読書の魅力や意義、有用性などについての理解を一層深めるとともに、繰り返し読みたくなるような心に残る図書と出合させていくことが効果的です。また、読書の時間が確保しにくくなるという生活環境の変化において、子どもに読書の工夫をアドバイスすることも必要です。

施策の目標値	不読率を平成25年度と比べて令和6年度末に半減させます。			
	不読率	平成25年度 実績	平成30年度 実績	令和6年度 (目標値)
小学校3年生	24.2%	17.6%	12.1%	
小学校4年生	22.6%	20.2%	11.3%	
小学校5年生	18.1%	17.2%	9.1%	
小学校6年生	23.1%	23.0%	11.6%	
中学校1年生	20.5%	15.9%	10.3%	
中学校2年生	23.0%	24.0%	11.5%	
中学校3年生	28.6%	30.5%	14.3%	

1 読書活動の機会の充実と啓発

(1) 家庭

子どもに図書館利用を勧め、家族の愛読書や面白かった読書経験を伝えることで、子どもの読書への関心を高めることをお勧めします。

取組例
[301]子どもに図書館の利便性を話して利用を勧めます。
[202]子どもに家族の愛読書や面白かった読書経験を伝えます。
[105]保護者や家族等が互いに図書を紹介し合ったり、子どもの読書の様子を話したりします。

(2) 地域の施設

ブックトークを通じて、読書の楽しさや興味を覚えてもらう取組を進めます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[308]ブックトークの実施	—	実施	実施

(3) 学校

学校教育の中で読書の楽しさを教えるとともに、読書により多様な価値観を獲得できるものであることを子どもに実感させることが大切です。さらに、不読率の改善のために、学校図書館の全体計画、年間指導計画に基づく学習活動のなかで、教科の学習内容と関連付けた次の3つの取組を通して、積極的な読書活動と学校図書館利用を図ります。

ア 教科の学習で図書を活用する取組

第1には、子どもが図書の内容を正確に読み取ることにとどまらず、自分なりの目的をもって必要な情報を得ることができるようにしたり、文章の内容や表現の仕方を評価したり、読んで理解したことを自分の的確な言語表現で発表します。例えば、国語科の読書指導では、語彙指導のほか、知識情報の収集をしたり、様々な立場や考え方を知るきっかけとしたり、自分の生き方や社会との関わりを考えたりする取組を進めます。同じようなテーマの複数の図書を読むことで、多角的なものの見方を養います。

また、学校図書館での図書や資料を用いた情報収集、論理的な文章や実用的な文章を理解する学習を行います。

第2には、読書を通じて、論理的に考え、根拠を提示し、相手を説得できるように意見をまとめていくことを経験することです。学習活動における課題や疑問について、図書館資料を活用した調べ学習の方法を身に付けていくとともに、夏休みの自由研究においても「図書館を使った調べる学習」を進め、主体的に学ぶことを支援します。

また、社会的な課題についての図書資料等の調べに基づいたディベート¹³やスピーチなどの口頭表現の技術の習得を通じて、観点を明らかにして分析することや評価することを学び、論理的に考え、聴いたり話したりする能力の向上を図ります。

イ 読書が自己の将来につながるものであることに気づかせ、読む図書の幅を広げる機会を設ける取組

個々の子どもの考え方と感受性等をきめ細かく配慮し、教師が一人ひとりの興味・関心を把握したうえで、その興味・関心に関わる図書を子どもに薦めることを行います。

例えば、子どもが好きな作家の図書を薦めたり、子どもが野球やサッカーなどのスポーツに興味がある場合、上達法や現在活躍している選手のことが書かれている図書を薦めたり、ゲームに興味がある子どもにはゲームを題材とした図書を薦めることや、読みたい本が見つからない子どものためにすぐに図書が手に取れる学級文庫におすすめのコメント文をつけて配架するなど、子どもの読書への関心が高まるよう取り組みます。また、学級指導においても、受験勉強に集中している時や友人関係に悩んだ時などに、先人の伝記や友情などをテーマにした図書を勧めることで、子どものやる気や心の安定を促すことも期待されます。このほか、将来の職業選択につながる図書などを進路指導及びキャリア教育¹⁴の一環として扱うことも有効です。

¹³ 「ディベート」：ひとつの論題の下、2チームの話し手が肯定する立場と否定する立場とに分かれ、自分たちの議論の相手に対する優位性を第三者であるジャッジに理解してもらうことを意図したうえで、客観的な証拠資料に基づいて論理的議論をするコミュニケーション活動です。

¹⁴ 「キャリア教育」：勤労観及び職業観を育てる教育。主体的に進路を選択する能力・態度を育て、職業生活との円滑な接続を図ります。

ウ 友人などの同世代をはじめとした人とのつながりを生かす取組

ビブリオバトル等の読書交流会や図書委員会活動を通じて、同世代と読書の楽しさを体感できるように取り組むとともに、下級生や幼稚園及び保育園の園児への読み聞かせを通した多世代交流を進めます。

また、同じ本をグループで読んで課題を発見し、意見を交わし、解決につなげるやり取りを行う生徒による読書会の開催を通じて、多様な価値観に触れ、自己の考えを深めることができます。

事業	指標	平成30年度 現状	令和6年度 目標
[211]読書指導	—	実施	実施
[212]朝読書等	—	実施	実施
[213]授業における学校図書館活用の推進	—	実施	実施
[214]下級生や幼稚園及び保育園の園児への読み聞かせ	—	実施	実施
[215]図書委員会活動での図書の展示や紹介	—	実施	実施
[311]生徒による読書会の開催	—	実施	実施
[218]読書マラソン	—	実施	実施
[219]季節等に合わせたお薦め図書の展示	—	実施	実施
[312]ブックトークの実施	—	実施	実施
[221]調べる学習コンクールへの参加	—	実施	実施
[313]読書交流会（ビブリオバトル、ディベート、スピーチ）の開催 【拡充】	—	実施	実施

（3）区立図書館・図書室

青少年向け図書に関する情報提供を行うとともに、子ども自身が図書の内容をイラストで紹介するPOPコンテストを開催し、子どもの読書活動の情報発信を支援するとともに、表彰することで読書意欲の向上を図ります。また、POPコンテストでは、絵本を題材とした作品を募集する部門を作り、中学生・高校

生の作品をこどもとしょかんや児童書コーナーで活用します。

また、子どもの興味の拡がりに応じた図書を案内するための関連資料の探索法を一覧にしたパスファインダーを作成します。

事業	指標	平成30年度 現状	令和6年度 目標
[320]青少年向け図書 に関するレファレンス	—	実施	実施
[321]青少年向け図書 に関する情報提供【拡充】	ブックリスト配布数	18,000枚	20,000枚
[322]中学生の図書館 利用の推進【拡充】	延べ貸出者数	10,824人	17,000人
	延べ貸出冊数	28,721冊	44,000冊
[323]高校生等の図書 館利用の推進【拡充】	延べ貸出者数	5,997人	9,000人
	延べ貸出冊数	14,380冊	22,000冊
[243]パスファインダー の製作と配布【新規】	種類数	—	100種類
[324]POPコンテスト (絵本以外)	—	実施	実施
[325]POPコンテスト (絵本)【新規】	—	—	実施

2 読書環境の整備

(1) 家庭

ブックリストで選書アドバイスをすることや、短時間でも継続して読書する工夫を紹介します。例えば、すぐに図書を手に取れるようにしておくことや、本を鞄に入れておくなどして、短い時間でも読書に親しめるよう子どもに働きかけます。

取組例
[303]ブックリストを参考に、選書のアドバイスをします。
[304]短時間でも継続して読書できる工夫のアドバイスをします。

(2) 地域の施設

子どもが手軽に読書できる環境の整備を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[310]青少年向け図書の整備	—	実施	実施
[122]団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	登録施設数	9 施設	11 施設 (児童館)

(3) 学校

学校司書の配置とともに、学校図書館の授業での活用を図ります。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[224]学校図書館年間指導計画に基づく運営	—	実施	実施
[317]学校司書の配置	—	実施	実施
[226]調べ学習用図書の整備	—	実施	実施
[227]学校図書館オリエンテーションの実施	—	実施	実施
[228]学級文庫の整備	—	実施	実施

(4) 学校図書館の整備

子どもが多様な図書を手に取れるように蔵書の分類に偏りがないように配慮し、学校図書館図書標準による蔵書の充実を進めます。また、新聞の設置を進め、新聞の論説や報道などの文章に接する機会を増やします。

さらに、読書指導において、教科書の単元に関連する図書の紹介を行うとともに、人文科学系¹⁵、社会科学系¹⁶、自然科学系¹⁷及びその他の分野¹⁸の図書を子どもの興味・関心に応じて読むことを勧めることで、学校図書館の生徒一人あたりの年間貸出冊数の増加を図り、学校図書館の利用を推進します。

¹⁵ 「人文科学系」：哲学、歴史、芸術、言語、文学等

¹⁶ 「社会科学系」：政治、法律、経済、教育等

¹⁷ 「自然科学系」：数学、物理学、化学、地学、生物学等

¹⁸ 「その他の分野」：百科事典、建築学、機械工学、農業、水産業、商業等

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[229]学校図書館の利用推進【拡充】	生徒一人あたりの年間貸出冊数	2.3 冊	10 冊
[230]蔵書の管理	学校図書館図書標準達成率	94.5%	100%
[231]選書及び除籍の管理	—	実施	実施
[232]新聞の設置【拡充】	設置学校数	4 校	10 校 (中学校)

（5）区立図書館・図書室の取組

青少年向け図書の収集と提供を進めるとともに、多様な読書方法を紹介します。例えば、最初から最後まで読み通そうとすると、途中で挫折したり、読み切れる自信がないために読み始めることさえできなかったりすることもあります。その代り、一通りざっと読んで要点を理解する読み方など、目的に応じて読み方を工夫できる手助けを行います。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[326]青少年向け図書の収集と提供【拡充】	—	実施	実施
[135]リサイクル図書の提供	—	実施	実施

3 読書活動を支える人材育成

（1）家庭

青少年向け図書のブックリストや読書の講座を通じて、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ることをお勧めします。

取組例
[306]ブックリストや読書の講座を通じて、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ります。

（2）地域の施設

読書勉強会の参加など施設の職員が読書活動についての知識を深めるよう取り組みます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[125]施設職員の読書技術 の向上【新規】	—	—	実施

(3) 学校

読書ボランティアの活用を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[319]読書ボランティ アの活用【新規】	—	—	実施

(4) 区立図書館・図書室

中学生・高校生向け読書講座、図書館を使った情報活用講座を行います。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[327]中学生・高校生 向け読書講座【新規】	開催数	—	4回
[328]図書館を使った 情報活用講座【新規】	開催数	—	2回
[329]青少年向け図書 に関するレファレンス研 修【新規】	開催数	—	1回

第4 特別な支援を必要とする子どもの施策

バリアフリーの視点から、身体及び知的等の障害やディスレクシア¹⁹ 等の学習障害により読書活動に支援が必要となる子ども及び外国にルーツを持つ子どもへの特別な支援を必要とする子どもの読書活動の取組を推進します。

施策の目標値	<ul style="list-style-type: none">18歳以下の障害をもつ子どもの図書館サービスの利用を拡充します。 平成30年度利用者7人⇒令和6年度300人外国語絵本の蔵書数を1.5倍に増やします。 平成30年度末2,066冊⇒令和6年度3,000冊
--------	--

1 読書活動の機会の充実と啓発

(1) 家庭

保護者が子どもと一緒に読書を楽しんでもらうことをお勧めします。

取組例
[401]子どもと一緒に図書館を利用します。
[103]子どもが興味を示す図書を読み聞かせます。
[402]子どもと同じ図書を読んで、子どもと読書をします。

(2) 地域の施設

障害の内容及び程度に応じた読み聞かせに取り組みます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[407]障害の内容及び程度に応じた読み聞かせ	—	実施	実施

(3) 学校

特別支援学級での読書活動を進めます。

事業	指標	平成30年度現状	令和6年度目標
[410]特別支援学級での読み聞かせ	—	実施	実施

¹⁹ 「ディスレクシア」：学習障害の一種で、知的能力及び理解能力などに異常がないにもかかわらず、字の読み書き学習に困難を抱える障害

(4) 区立図書館

障害児向け図書のレファレンスや情報提供、外国語による読み聞かせ、外国語図書のレファレンスや外国にルーツを持つ子どもの図書館利用ガイダンスを行います。

事業	指標	平成30年度 現状	令和6年度 目標
[414]障害児向け図書のレファレンス及び情報提供	—	実施	実施
[415]外国語による読み聞かせ	—	実施	実施
[416]外国語図書に関するレファレンス及び情報提供	—	実施	実施
[417]外国にルーツを持つ子どもの図書館利用ガイダンス【新規】	実施回数	—	4回

2 読書環境の整備

(1) 家庭

家族が一緒に読書する機会と子どもが手軽に図書を手に取れるようにします。

取組例
[111]家族が一緒に読書する機会をもち、子どもが手軽に図書を手に取れるようにします。

(2) 地域の施設

障害児向け図書を用意し、子どもが手軽に図書を手に取れる環境づくりをすることや団体貸出の利用による図書の充実を図ります。

事業	指標	平成30年度 現状	令和6年度 目標
[409]障害児向け図書の整備	—	実施	実施
[122]団体貸出を利用した図書の充実【拡充】	施設数	8施設	28施設 (児童発達支援・放課後等デイサービス事業所)

(3) 学校

障害児向け図書を用意し、子どもが手軽に図書を取れる環境づくりをすることや団体貸出の利用による図書の充実を図ります。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[412]障害児向け図書の整備	—	実施	実施

(4) 区立図書館

障害の内容及び程度に応じた利用環境の整備を進めます。また、外国語図書の充実を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[418]障害の内容及び程度に応じた利用環境の整備	—	実施	実施
[419]外国語図書の充実【拡充】	外国語絵本の蔵書数	2,066 冊	3,000 冊

3 読書活動を支える人材育成

(1) 家庭

お話し会や読書の講座に参加し、子どもがどのような図書に興味を持っているのかを知ります。

取組例
[113]お話し会や読書の講座に参加し、子どもがどのような図書に興味をもっているのかを知ります。

(2) 地域の施設

障害のある子どもへの読み聞かせ等の読書技術の向上に取組を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[125]施設職員の読書技術の向上【新規】	—	—	実施

(3) 学校

障害児読書ボランティアの活用を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[413]障害児読書ボランティアの活用	—	実施	実施

(4) 区立図書館

障害児読書ボランティアの養成と活動支援を進めます。

事業	指標	平成 30 年度 現状	令和 6 年度 目標
[420]障害児読書ボランティアの養成【拡充】	—	実施	実施
[421]外国語図書に関するレファレンス研修【新規】	開催数	—	2回